

都留文科大学報

Vol.152
July. 2023

特集

新学長・副学長就任

新棟 Tsuru Humanities Center
(THMC) 供用開始

都留文科大学入学式

文大に着任するにあたって

学外研究報告

就職状況報告

学生による授業アンケートの結果から

入試状況報告

文大だより

ぶんだい堂



令和5年度 都留文科大学入学式



都留文科大学入学式

今年の入学者は858名

令和5年4月5日（水）、都の杜うぐいすホールにおいて、令和5年度都留文科大学入学式を開催いたしました。



今年の式典では、新入生1名につき保護者1名の入場が可能となったほか、4年ぶりとなる本学管弦楽団と合唱団による奏楽が行われ、学生歌「花のかげ」、愛唱歌「都留はuniverse」が演奏されました。

午前10時から行われた第一部では、学校教育学科・地域社会学科・国際教育学科・専攻科・編入生（学校教育学科）、午後1時30分から行われた第二部では、国文学科・英文学科・比較文化学科・大学院・編入生（国文学科・英文学科・比較文化学科）を対象に行われました。

入学者の内訳は、教養学部：学校教育学科197名、地域社会学科163名、文学部：国文学科157名、英文学科138名、比較文化学

科129名、国際教育学科44名、文学専攻科1名、大学院文学研究科14名、学部編入15名であり、合わせて858名の入学が認証されました。

新入生代表による挨拶では、学校教育学科の宮本愛姫さんが「大学での学びを通して専門的な知識と幅広い教養を身につけ、現代社会が直面する多くの問題を様々な視点から学び、探究していきたい」と、比較文化学科の原田拓海さんが「世界情勢の変化が私たち自身にも大きな影響をもたらす中、様々な課題



に立ち向かうしなやかな知恵と行動力を養いたい」とそれぞれの決意を述べました。

会場周辺では部活動・サークルなどの新入生歓迎

活動も行われるなど、活気に満ちた雰囲気での開催となりました。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。



学 長 祝 辞



都留文科大学 学長 加藤 敦子

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。都留文科大学の教員・職員を代表して、みなさんのご入学を心よりお祝い申し上げます。また、ご家族の皆様にも心よりお慶びを申し上げます。

2020年初めから世界中に広がった新型コロナの影響で、新入生のみなさん、ご家族の方々、それぞれにご苦労があったことと思います。高校生活の多くをコロナ禍の中で過ごし、不本意な日々を送ったという人も多いでしょう。その不安な日々を乗り越えて、晴れて今日の入学式を迎えたみなさんの努力に深い敬意を表します。コロナは完全に終息したわけではありませんが、この4月から、大学においてもコロナ以前に近い水準で活動できるようになりました。キャンパスで自由に学び、部活・サークル・バイトに励み、都留での豊かなキャンパスライフを送ることができるように、教職員一同、全力でみなさんの大学生活を支援していきます。

都留文科大学は、1953年に設立された山梨県立臨時教員養成所から始まりました。今からちょうど70年前のことです。第二次世界大戦後、特に地方

での深刻な教員不足に対応するためにつくられた、臨時の教員養成所でした。2年後の1955年、この教員養成所の組織を改めて都留市立短期大学が創設され、1960年には4年制の都留市立文科大学となりました。都留文科大学がそのルーツから、教員養成という日本の将来を担う子どもたちを育てるための人材育成を目的としていたこと、また、都留市の市立大学として創設されたこと、この2つは今も都留文科大学の根幹です。今日から都留文科大学の学生となったみなさんにも、ぜひ覚えておいてほしいと思っています。

さて、今日はここでみなさんに大学での学びについて2つのことをお話ししたいと思います。1つめは都留文科大学で何を学ぶか、ということです。

みなさんの入学と同時に、都留文科大学は新しい校舎をオープンしました。富士急行線の駅から大学へ歩いてくると一番はじめに目に入る大学の建物です。私たちはこの校舎を「Tsuru Humanities Center」「THMC」と名付けました。「ヒューマニティーズ」とは人文学のさまざまな分野を意味し

ます。都留文科大学の「文科」という言葉に込められた、言語・文学・教育・歴史・思想・政治・社会など広範に及ぶ学問領域を意識しての命名です。一方で、この Tsuru Humanities Center では、VR や 3D プリンター など最先端のデジタル機器を備えて、プログラミングやデジタルコンテンツの作成といった情報教育、DX、デジタルトランスフォーメーション教育を推進していきます。

デジタルテクノロジーによる社会の変化とでいえば、最近、人工知能 AI による画像やテキストの生成が驚異的な水準で可能となったことが大きな話題となっています。誰でも容易に高水準の画像や文章を作れるようになる、すばらしい技術です。しかし、実際に AI の利用が一般に広がるとすぐに、AI を使う人の教養やリテラシーによって、AI から引き出せる成果に大きな差が出るということが明らかになりました。AI を活用するためには、それを使う人間が知識や教養、リテラシーを備えている必要があるということです。また、AI 利用の広がりとうらはらに、イタリアでは対話型 AI 「ChatGPT」が一時的に禁止され、アメリカではオープン AI の商業利用の差し止めが求められるという事態が起きています。画像やテキストを生成する AI には、膨大な量のデータが読み込まれますが、そのデータの収集方法に問題が提起されたためです。これまでにない革新的な技術は、これまでにない新たな問題を引き起こすのです。

現代社会では、ChatGPT のような AI を使いこなすスキルを身につけることも大切です。しかし、今お話ししたように、AI を有効に使いこなすためには、幅広い知識や教養が不可欠です。さらには、そもそも AI が画像やテキストをどのように生成しているのか、基本的な仕組みを知り、そこから、AI にできることの可能性と限界を考え、革新的な技術が社会にもたらす問題や影響を予測して、有効かつ適切な利用のためにどのようなルールや枠組が必要か、議論を喚起してグローバルなレベルの社会的な合意形成をはかっていくことが求められます。

それは人文学の仕事です。哲学・思想・歴史・文学・芸術・教育・社会などを研究対象とする人文学、ヒューマニティーズの領域です。AI だけではありません。新しい技術や変化する社会に対応していくためには、人文学的教養が必要となるのです。これから都留文科大学で学ぶみなさんには、実用的な知識やスキルの習得で満足することなく、深い知識や体系的な理論を学び、豊かな人文学の教養を身につけてほしいと思います。

大学での学びについて、2 つめにお話したいのは、大学でいかに学ぶか、ということです。私の 30 年近い大学教員のキャリアの中で、特に忘れがたい 1 人の学生さんがいます。今から 25 年ほど前、私が担当していた放送大学の対面授業に出席していた学

生さんです。放送大学は基本的には通信制の大学で、社会人として仕事をしながら学ぶ方、定年退職して、あるいは子育てに区切りがついて、自分のために学びたいという方が多く、私の対面授業でもほとんどの学生さんが当時 30 代の私より年上でした。その中に、75 歳くらい、教室の最前列にびしっと背筋を伸ばして座り、熱心にノートを取りながら講義を聞く男性がいました。自分の父親より年上の方の、真剣な受講態度に接して、私は毎週身の引き締まる思いで教壇に立っていました。その方は、学期末に、専門的な研究書を何冊も読み込んで、原稿用紙 30 枚の立派な手書きのレポートを提出されました。

70 歳を超えてなお、娘のような年頃の教師から真剣に学ぼうとする姿勢を目の当たりにして、私は深く考えさせられました。個人的な事情を伺う機会はありませんでしたが、年齢からして 1920 年代のお生まれ、みなさんと同じ年頃の時、日本は戦争中で、学びたくとも学べなかったであろう世代です。その世代の方が、それから 50 年経って、70 代になって、真摯に誠実に学ぼうとしている。この学生さんとの出会いは、駆け出しの大学教員だった私にとって、学ぶこと、教えることの原点となりました。

教師の講義を真剣に聞き、研究書を読み漁り、長文のレポートを書く、という学び方は、当時の一般的な講義で求められた学びのあり方であり、また、ご本人がかくあるべしと考えた学びのあり方です。今では学びのスタイルも多様化しています。書物や論文を読むことにも、学生同士で議論することにも、様々な人たちと協力して何事かを実践していくことにも、そこに学びがあります。ですが、そのように多様化した学びにおいても、真摯に誠実に取り組むことが重要であるという点は、今も変わりません。さらに言えば、今日ここに集ったみなさんは、学ぼうという意志があれば、いくらでも存分に学ぶことのできる、幸せな境遇にあります。

都留文科大学の学訓は「菁莪育才（せいがいいくさい）」です。これは中国の四書五経の一つである『詩経』の言葉によるものです。「せいがい」は青々と茂るつのよもぎ、「育才」はすぐれた人物の育成を楽しむことを意味し、「つのよもぎが勢いよく成長するように学生が成長して欲しい」との願いが込められています。

みなさん、この都留文科大学で、真摯に誠実に存分に学んで下さい。深い知識と体系的な理論、幅広い人文教養を身につけ、それを社会で実践的に役立てる力を育てて下さい。多様な学びを通して、自己を知り、他者を知り、世界と出会い、人間性を磨いて下さい。都留文科大学はみなさんが勢いよく成長するための場です。

みなさんの都留文科大学での学びが、豊かなものとなることを願っています。



新入生のことば

文学部 比較文化学科

新入生代表 原田 拓海

やわらかな陽射しの降り注ぐ季節を迎え、春の息吹が感じられるこの佳き日に、伝統ある都留文科大学の入学式に臨んで、大きな喜びを感じています。これも、母校の先生方のご指導や家族の愛情、友人たちの励ましのおかげです。皆様の思いを胸に、掛け替えのない大学時代にすべく、日々精進して参ります。

今から12年前、東日本大震災に見舞われ多くの尊い命が奪われました。今も尚、心に深い傷を負いながら、復興に向け直向きな努力を続ける方々がいます。また、この2月のトルコ大地震では、隣国シリアを含め5万人以上の方が亡くなりました。家族を失った幼い子どもが泣き叫ぶ姿をニュースで見て、胸が痛みました。それでも尚、大きな爪痕が残る辛い状況の中、前向きに復興を目指す方々がいます。これらの粘り強い姿は、私たちに困難に立ち向かう勇気を与えてくれます。

この3年間、世界は新型コロナウイルスのパンデミックの猛威に見舞われてきました。国内だけでも累計感染者は3000万人を超えています。7万人以上の命が失われ、様々な分野で活動が制限されてきました。さらに、ロシアのウクライナ侵攻は1年以上続き、解決の糸口が見えません。

こうした状況の影響は社会や経済、そして私たちの日常生活にも及んでいます。グローバル化の進展やICTの発達には世界との距離を縮めてくれますが、逆に世界情勢の変化が私たち自身にも大きな影響をもたらすのだと改めて感じています。

一方で、コロナの状況も次第に落ち着き、様々な制限も少しずつ緩和されてきました。明るい兆しが見える中で、私たちは、これからの社会を構築していく新たなステージに立つことになります。そこでは、様々な課題に立ち向かうしなやかな知恵と行動力が求められます。だからこそ、この4年間で何をすべきかしっかりと考え、目標を持って学ぶとともに、多くの経験を積んで、自ら積極的に行動する力を養いたいと考えています。

都留文科大学には全国各地から学生が集まります。この恵まれた環境のもとで新たな発見をし、視野を広げていきたいと思います。そして、勉学と同時に、部活動やサークル活動を通して互いに交流を深め、協力し信頼し合える豊かな人間性を育みたいと思います。

私たちは、都留文科大学の学生としての自覚と誇りを持ち、それぞれの成長、夢の実現に向かって進んで参ります。そして、限りある一日一日を大切に大学生活を送ることを決意し、新入生のことばといたします。



新入生のことば

教養学部 学校教育学科

新入生代表 宮本 愛姫

暖かな春の陽射しに誘われて、桜もほころび始めるこの佳き日に、伝統ある都留文科大学の入学式を迎えられたことを、大変嬉しく思います。これも、母校の先生方・家族・友人たちなど、多くの方々の支えのおかげです。都留文科大学での生活を、実りある素晴らしいものにすべく、日々精進し、切磋琢磨していきたいと思っています。

私たちは、新型コロナウイルスの感染拡大と共に、制限の多い高校生活を過ごしてきましたが、この5月には五類に移行する方針が示され、マスクの着用や様々な制限も緩和されてきました。しかし、この3年間で国内だけでも7万人を超える命が失われ、社会全体が大きな影響を受けて数々の問題が表面化しています。

また、ロシアによるウクライナ侵攻は1年以上続き、国際社会における対立は悪化の一途をたどっています。ウクライナやロシアの人々の生活は勿論のこと、止まることのない物価上昇や原油価格高騰など、私たちの生活にも大きな影響を及ぼしています。

さらに、近年、ICTやSNSが急速に発達し、人々のコミュニケーション方法も多様化してきました。そのおかげで、場所や年齢を問わずいろいろな人と意見を共有できるようになり、リモートワークなどの働き方も普及してき

ました。その反面、SNSを悪用した様々な事件や、ネット依存などの問題も生じています。

このように難しい課題が山積する時代に、私たちは不安を抱えながらも、立ち向かっていかなければなりません。そのために、大学での学びを通して専門的な知識と幅広い教養を身につけ、現代社会が直面する多くの問題を様々な視点から学び、探究していきたいと思っています。そして、自ら考え、前向きに行動する力を一層高めていきたいと考えています。

このような時代にあっても、私たちにはそれぞれの夢があり、希望があります。全国各地から学生が集まる、この都留文科大学の恵まれた環境のもとで、新たな未知なる世界に一步を踏み出し、多くのことを経験し、学び、そして、自分の世界観を豊かに広げていきたいと思っています。勉学に励むことは勿論、部活動やサークル活動にも積極的に参加し、豊かな人間性を育んでいきたいと考えています。

そして、都留文科大学の学生として恥じることのないよう、また、社会に貢献できる人間になれるよう、自信と誇りを持って歩みを進めて参ります。私たちは、高校生活の中で「普通の日常」がどれほど大事なもののなのかを学びました。だからこそ、一日一日を大切に過ごすことを決意し、新入生のことばといたします。



第15代学長として

加藤 敦子

この度、公立大学法人都留文科大学の学長・副理事長に就任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。第15代の学長とのことで、本学の歴史と伝統の重みを改めて感じております。

昨年4月に副学長・理事を拝命し、この1年間、大学の様々な課題に取り組んで参りました。国内の少子化、18歳人口の減少により、日本の大学は競って志願者確保の努力を続けています。教員の働き方に対するネガティブな情報の拡散により、教員養成に実績のある本学の強みに陰りが生じています。コロナ禍における地元志向の高まりは、全国47都道府県から学生が集まる本学にとって逆風となっています。

このような厳しい状況の中で、意欲ある高校生・受験生に本学を選んでもらうには、都留で学んでよかった、都留で成長できた、と学生が実感できるような教育を推進していくしかありません。そのために、カリキュラム、授業内容、施設設備、学生支援等、あらゆる面からさらなる教育の質の向上を目指したいと考えております。

この4月には、Tsuru Humanities Center (THMC) がオープンしました。VRや3Dプリンターなど最新のデジタル機器を備えたデジタルコモンズ、より実践的な模擬授業や研究授業を可能とする小学校の現場を再現した教室、机や椅子のレイア

ウトを自由に変更できるPBL（課題解決型学習）やアクティブ・ラーニングに適した演習室を活用し、学生も教員も都留の新たな学びを展開していきます。

さらに、令和6年度には学部改編を予定しています。2学部6学科体制は変わりませんが、文学部は国文学科・英文学科の2学科、教養学部は学校教育学科・地域社会学科・比較文化学科・国際教育学科の4学科とし、各学部の特徴を明確に打ち出していきます。同時にカリキュラム改訂を行い、副専攻プログラムを導入します。副専攻プログラムでは学部・学科の垣根を越えた学びも可能とし、例えば「デジタルシティズンシップ」のプログラムでは、どの学部・学科に所属する学生もデータサイエンスを学ぶことができます。

4年の任期を通して、教員養成・人材育成を旨としてきた本学の伝統を守りつつ、社会の変化や要請に応じて学生たちが現代社会の課題解決に取り組む力を身につけることができるような教育環境を整える施策を進めて参ります。

関係の皆様方におかれましても、なにとぞご支援ご協力下さいますよう、また、ご意見ご叱正賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

副学長就任



副学長に就任して

佐藤 明 浩

令和5（2023）年度から、加藤敦子新学長の後任として、副学長・理事（学生・教育担当）に就任しました。責任の重い役職に就くのは自ら心許ない思いであり、加えて新学長と同じ国文学科の教員であり、全学的なバランスの点においても、当該学科の他の教員に負担が偏ってしまうことについても問題があると考えていたのですが、務めますからには力を尽くす所存です。ご助力、ご協力をいただけますよう、お願い申し上げます。

来る令和6（2024）年度の新入生からは、再編された学部・学科により、新しいカリキュラムに基づいた教育が始まります。新たな教育方針とカリキュラムについては、昨年度までに、各学科、各センターでの検討を経て、将来構想委員会にて議論、集約されて内容が確定し、現在、カリキュラム改訂特別委員会での実施に向けての準備がすすめられています。新カリキュラムでは、科目が新設され、既存科目に洗練が加えられ、学科間の新たな連携がなされます。一方、検討の過程で、これまでの教育活動の価値や成果があらためて認識されたところもあるのではないのでしょうか。新規のものにせよ、既存の価値にせよ、学内で認識を共有したうえで、より見えやすい形で本学の魅力として発信していくことが肝要でしょう。

コロナ禍への対応は世界全体としても新しい段

階に入り、本学も以前に近い大学生活をとり戻しつつあります。2020年度以来、保健センターほかの尽力によって学生生活が守られ、困難はありつつも、皆様の協力によって、教育活動を続けることができました。対策本部、対策チームの一員であった者として、あらためてお礼を申し上げます。国際交流においても、中止を余儀なくされていた留学が再開し、さらに、交換留学、語学研修等の拡充にむけての活動もすすめられています。

その他、各学科、各センター、附属図書館等で、教育・研究のさらなる充実のために企画、活動が進展しています。事務局もそれらを支える働きを担っています。今後ともそれぞれの組織、機関として尽力くださると思いますが、大学として前進していくためには、情報共有、相互理解のうえに立った認識の共有、合意形成が基盤となるでしょう。学内外の調整等の役割は果たしたく願っていますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



特集

新棟 Tsuru Humanities Center (THMC) 供用開始

いよいよ令和5年4月から新棟「Tsuru Humanities Center (THMC)」が動き出しました。供用開始から3カ月がたちましたが、既に多くの学生さんが集まっています。また、新しいアイデアでつくられた教室も好評のようです。これから更に、THMCを拠点としてさまざまな人が集い、学び、深められることが期待されています。

1 新棟THMCとは

テクノロジーの進化により、人類史上類を見ない変革期を迎えている昨今、「学び」に対する考え方も大きく変わりました。また、教育も根本から変わろうとしています。併せて、大学にも従来の積み上げ型の学習だけでなく、自律的かつ創造的で豊かな学びと、複雑な能力を涵養するための新たな学修環境の整備が求められています。

こういった状況を受けて、新棟建設部会は、新しい時代の学修環境となる新棟の在り方について検討を重ね、本学と地域が協働しながら、公立大学としての新たな価値を創造し、地域レベルで未来型の学びを実現することを目指しました。

2 各フロアのねらい

THMCのテーマは「さまざまな人が集う、学ぶ、深める」です。即ち、既存のプログラムだけではなく、学修者（本学の教職員と学生、地域の人々）が興味・関心を基に集まり、豊かなコミュニケーションの基、互いに学び合いながらより深め合うことが目標です。そのためには、従来型の教室ではなく時代の変化に対応するフレキシブルな学修空間が必要です。これを受けて、THMCには自律的に学ぶための様々なラーニングコモンズと、フレキシブルに変化する小・中規模の多目的教室を配置しました。また、旧山梨県南都留合同庁舎の建物を再利用することで、環境負荷削減にも大きく貢献しています。

各フロアの案内

外構部と1階

集う、学ぶ、深める

大学の新しいシンボルである THMC の外観には、アルミパネルやリン酸亜鉛処理を施したスチール素材を使って、本学の新しいイメージを表現、内部には国内・県内産の木材を象徴的に使い、居心地の良い空間を実現しました。内・外に Wi-Fi と電源を整備、いつでもどこでも学べるように配慮しています。また、様々な人が集うために、富士急行線都留文科大学前駅から徒歩 5 分の好立地な場所に、歩者分離の導線を確保しながら乗用車 60 台、バス 2 台分の広く見通しの良い駐車スペースを確保しました。

階高の低い 1 階は、屋根付きの駐輪・バイク駐車スペースとして活用、エレベーター・階段建屋を増設、雨に濡れることなく駐車場・駐輪場から THMC 内にアクセスできます。外構部入口にはシ



ンボルツリーを植樹、ウッドデッキとベンチも配置しました。外壁には、大学のロゴ（夜間は LED で輝く）を設置、外構部の手すりやベンチ、擁壁にも LED を組み込み、新たなキャンパスの象徴となる、安全で、美しいエントランスを創出しました。更に、周りの植生には季節ごとに咲く花や果樹を選び、学修者を学びに誘うための工夫を凝らしています。



2階

さまざまな人が集い交流し、
新たなアイデアを創出

2 階は THMC の玄関であり、本学と地域をつなぐエンカウターの機能を備えています。ロビーの壁には展示金具を設置、様々な学修成果の発表に対応しています。また、学修者同士がお茶やコーヒーを飲みながら、じっくり語り合い、学び合えるように、新しい発想による学修環境として「カフェコモンズ」を整備しました。ここでは、自学自習のみならず、授業前後に仲間と待合せたり、教員や地域の方を交えて簡単なミーティング行ったりするといった、幅広い活動を想定しています。

3 階

最新の機器を備えたデジタルコモンズで

アイデアを深め、カタチにする



3階には「レーザーカッター」や「3D プリンタ」、「VR」などの新しいテクノロジーに触れられる施設「デジタルコモンズ」を配置しました。これは、新たなテクノロジーに触れながら、興味・関心を基に大学と地域、国や言語の隔たりを超えて互いに知り合い、カリキュラムに縛られない自律的で協働的な活動を行うための施設です。想定される具体的な活動として、レーザーカッターや3D プリンタによるものづくり、映像の編集やプログラミングなど、様々なワークショップの開催が構想されています。同フロアーには、カウンターキッチンを備えたコミュニケーション型のラーニングコモンズも配置しました。デジタルコモンズとラーニングコモンズの仕切りは可動式で、開放すると馬蹄型の一体化した、大きな空間として使うことができます。このように3階には、「DIGITAL」と「コミュニケーション」を融合した新しい発想の活動や、2階と4階のコミュニケーションを促すための基盤機能をねらいました。

4 階

模擬授業を通じて、次世代に求められる教育を研究、新しい授業をつくる

4階には「教職支援センター1・2」を配置し、本学と地域が協働しながら、互いに学びを支え合うこと目指しています。これからの社会を考える上で、教育は避けて通ることができない全学的なテーマの一つです。同時に、THMCが地域の学びの拠点となることを期待しています。これを踏まえ、同フロアーには小・中学校の教室をイメージした「模擬教室」を配置、将来的には近隣の小・中学生を招き、子どもたちに新しい発想による学修環境によって好ましい刺激を与えつつ、実験的な「未来型授業」を行い、その様子や成果を学内外に発信することを期待しています。更に、複雑化・個別化する社会の中で、自律的に自己を見つめながら考えを深められるように、独立した空間のラーニングコモンズも配置しました。



その他、各フロアーには広く清潔なトイレと多目的トイレ（2階トイレにはおむつ替えシート）を設置、廊下のアルコーブ（壁のくぼみ）にも照明と掲示装置、ベンチ、電源を設置、タブレットやPCを充電したり、学んだりすることができます。更に、2F カフェコモンズと4F 廊下にオンデマンドプリンターを設置、自律的な学びを支えます。

光は居心地の良しあしを決める重要な要素です。各フロアーの照明デザインにも気を配りながら、2階ロビーとカフェコモンズの天井には高品位な照明器具を採用し、居心地の良い空間を目指しました。また、自然光を効果的に取り込むために、廊下側の窓には木目調のルーバーを設置するなど、快適に過ごすための様々な工夫を凝らしました。

3 新棟で何をどのように学べるのか

持続可能でよりよい社会を創り出すためには、知識や技能などの基礎的な能力と共に、高い倫理観や豊かな創造性といった「複雑な能力」が求められます。THMC のねらいは、新たな考え方による学修環境を整備することで「さまざまな人が集う、学ぶ、深める」、即ち、学修者が地域を基盤としながら自律的かつ創造的で豊かに学び、予測が困難な時代にあっても、より豊かな人生を送るために必要な能力を高め合うことです。そのためには、多世代による交流や地域との繋がりの中で実践的かつ主体的に学び、積極的に社会にかかわることの意味を理解する必要があります。更に、グローバルな世界が DX 化する中で、ローカルな都市における DX 人材の育成は喫緊かつ、本学と地域が共有すべき課題でもあることから、デジタルコモンズには、地域の DX 化を推進するための学修拠点としての期待も高まっています。

このように、様々な工夫や配慮を凝らした THMC は、本学の考える「社会に開かれた学び」の実現を目指す為の新しい発想の設備です。また「教職支援センター」をハブとして、地域の学びをつなぎながら「探究型学習塾」や「市民大学」と連携しつつ、地域の「学修者本位の学び」の実現にも貢献できると考えています。

この間、私は何度も THMC に出かけて、学生さんがどのような学びを始めるのか、注視してきました。THMC には、学生さんが朝 8 時半頃か

ら集まり、夜 9 時過ぎまで熱心に学んだり、学科を超えて仲間と楽しそうに交流したりする様子がみられます。併せて、使った席はきれいに片付けられていて、高い倫理観のもと、新たな学びの場を共有していると感じました。学生さんに話を伺うと「快適な空間で集中できる」「こんな学びの空間が欲しかった」と言っていました。既に学生さんにとって、THMC はなくてはならない設備となったようです。

地域との新たなつながりに関していえば、教職支援センターの提案により、4 F 模擬教室で「都留市学校経営研究会」が開催されました。ここには地域の小・中学校から校長先生 9 名と、教育委員会や教育研修センターから合計 3 名の関係者が集まりました。また、終了後に THMC 内を見て頂きつつ学生さんとも交流する中で「穏やかな雰囲気の中で、多くの学生さんが落ち着いて学修に励んでいる」と評価していただきました。併せて「新しくきれいで今後も利用したい」「とても落ち着いた雰囲気と、使いやすい机や椅子で集中することができた」といった感想も頂きました。研究会終了後には、デジタルコモンズで VR も体験していただきました。「先進的な施設に大変驚いた」「VR は模擬授業にも活用できると思った」などの感想を頂き、DX 人材育成に関しても新たな可能性を共有できたと感じています。今後は、「都留市学校運営研究会」などにも開催を呼びかけ、更に多くの方に THMC を知って頂き、未来志向の活動を試行していきたいと考えています。

THMC が始動したことにより、本学と地域の新たなつながりが始まりました。上述の研究会のほかにも、様々な方から「学会や研究会の会場として使ってみたい」といったお話を伺っています。また、「つる子どもまつり」をはじめ、デジタルコモンズなどを使った様々なワークショップや、カウンターキッチンを使ったコミュニケーション型の活動なども計画されていて、今後更に、交流の輪が地域に広がることを期待しています。私も一教員として、「さまざまな人が集う、学ぶ、深める」に参加したいと思います。

文末ではありますが、THMC 整備に向けてご理解・御協力いただきました学内・外、地域の皆様に、新棟建設部会を代表して厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。今後も引き続き、THMC の活動にご理解・御協力賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

新棟建設部会長
鳥原正敏



着任によせて

国文学科 准教授

小村 宏史

新任教員の小村宏史と申します。前年度までは、静岡県にある沼津工業高等専門学校に勤務しておりました。縁あって本年度より文学部国文学科に着任した次第です。

前任校ではよく見えた富士の姿が、文大からは近隣の山々のおかげで全然見えません。しかし、かつて文大生として本学に通った過去をもつ私にはこれも既知のことで、むしろ懐かしさと落ち着きなど覚えるところでもあります。

さて私の主要な研究対象は、わが国古代文学における神話的言説というものです。いかにも浮き世離れた虚学のようなのですが、ある共同体が危機や困難に臨むとき、そこに超越的存在に心の拠り所を求める言説（＝神話的言説）が生成される現象は、現代でもま見られます。新型コロナウイルス禍のなか、疫病を退散させるというふれこみで「アマビエ」なる妖怪図像が人気を集めたことはよい例といえるでしょう。また全国各地の「ご当地キャラ」は、地域の象徴要素を有するという点で、新たな土地神の創造行為ともいえそうです。



古典不要論なども耳にする昨今ですが、「古代を通して現代をみる」という視座のもと、本学での研究・教育活動を通し、学生諸君に、自らをとりまく文化事象について問題意識をもって見つめる姿勢を涵養していくつもりでおります。どうぞよろしくお願いいたします。



国宝・神魂神社本殿。出雲大社同様の大社造だが、現存最古なのはこちら。島根県のご当地キャラ「しまねっこ」はこの大社造の意匠を受け継ぐデザインとなっている。

着任のご挨拶

英文学科 講師

堤 博一

文学部英文学科に英語学担当教員として着任いたしました、堤博一と申します。専門は生成文法で、日英対照言語学的視点から、人間がどのように言語表現を生成し、理解するのかを研究しています。

昨今、ChatGPTのような大規模言語モデルが注目されています。これらは、膨大な量のテキストから自然言語のパターンを抽出して文章を生成することができ、機械翻訳、文章生成、質問応答などのタスクに使用されています。これに伴い、この分野から、人間の言語獲得における「刺激の貧困」の問題を解決するために、「普遍文法」という生得的機構を指定する生成文法理論への批判が散見されるようになりました。自然言語処理技術がますます発展する中で、この批判にどう応えるべきか、また生成文法を含む理論言語学が果たすべき役割について、考察を進めていくつもりです。

母語話者が当然のように使いこなす無意識的な言



語知識を客観的に分析する言語学は、これまでに身につけ当然視してきた常識や規範意識、偏見を相対化し見つめ直すという大学での学びのあり方を如実にかたどっていると思います。学生の皆さんと共に、英語学や言語学についての知識を深めることを通じて、成長していくことを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。



自然言語の文は階層的な木構造をしているとされる

着任のご挨拶

英文学科 特任教授

浅見 道明



4月に英文学科特任教授として着任いたしました浅見道明です。3月までは茨城県の筑波学院大学で英語を教え、国際交流委員会委員長をしていました。埼玉県と国立の高等学校で約40年英語を教え、定年を迎えましたが、筑波学院大学からお話をいただき、2年間勤務しました。とてもよい学生ばかりで楽しい毎日でしたが、筑波学院大学は経営情報学部しかなく、自分の専門の英語教育と英語音声学のどちらも教えることができませんでした。そんな時、都留文科大学特任教授のことを知りました。教員生活最後の場所と考え、自分が得た英語教師としての経験を教員志望の学生に伝えていきたいと、応募しました。

自分は英語の発音をカタカナや漢字を使って教えています。たとえば、womanを「魚万」と教えると英語らしい発音になります。この方法を学生に伝えていきたいと考えています。

趣味として25年ほど前から自作のPCを作っ

ています。私は野球はアンチ巨人で、横浜ベイスターズのファンです。同じように、PCでも本流のIntelを使わず、AMD CPUを使っています。サッカー観戦も好きで、地元のさいたまスタジアム2002に時々試合を見に行きます。それから、上手ではありませんが、健康のためゴルフを時々やっています。

都留文科大学で、素晴らしい先生方や学生に会えるのを楽しみにしております。



さいたまスタジアム 2002にて

〈物語〉を読み解く力を、大切なものを選び取る力に

学校教育学科 講師

菊地 優美



教養学部学校教育学科国語系に着任いたしました、菊地優美です。

日本の近現代の女性作家による文学作品をジェンダーやセクシュアリティの観点から研究することを専門としています。なかでも、昭和戦前期に活躍した野溝七生子という作家について研究しています。

昨年度は「専門演習Ⅰ・Ⅱ（言語文化）」を担当し、本学の学生のみなさんが、教員をはじめそれぞれの道を目指し、授業に真摯に取り組む姿に触れ、ぜひみなさんの夢や学びを支えたいという気持ちを深めた一年でした。

私たちは日々、様々な〈物語〉のなかで生きています。私たちの暮らす社会、そこでの日常生活、日々他者と交わす言葉のなかにも〈物語〉があります。たとえば、性別と関連づけて、こう生きるべきだといった考え方も、一つの〈物語〉だと言えるでしょう。そして、それらの〈物語〉が、私たちが求めているかどうかすら気づかないうちに、小説や漫画、映画などの魅力的なストーリーとともに私たちの心の中に入り込んでいることもあります。

文学作品を分析し、批判的に読み解く力を身につけることは、そうした身のまわりのさまざまな〈物語〉をも読み解き、自分が求める生き方や大切にしたいものを選び取る力につながると考えています。これから、都留文科大学のみなさんとともに、そうした〈物語〉を読み解く力を身につけられるよう、一緒に学んでいければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



研究対象とする野溝七生子の書籍

本学の素晴らしさ

学校教育学科 特任教授

三崎 隆



16年間の信州大学での勤務を終え、教養学部学校教育学科に着任いたしました理科教育学研究室の三崎隆と申します。この度、着任の挨拶の機会を頂戴しましたので、着任して感じております本学の素晴らしさについてお伝えいたします。

まず第一に、立地の素晴らしさです。エントランスから緩やかな登りに沿ってイルミネーションがキャンパスに誘う魅力は何より素晴らしく、素敵な大学である第一印象を与えてくれます。ムササビの森等を有する自然の豊かさと、満開の桜とそよぐ爽やかな風に迎えられる心地よさ、広いキャンパスとそこからの眺望の見事さは心とみます。

第二に、人の素晴らしさです。着任わずかではありますが、先生方から温かくフレンドリーに迎えていただきお声がけいただけましたことがどれだけ心強く思えたか分かりません。事務職員のみなさまからは丁寧かつ親切に、そして最後まで手厚くご対応いただいていることに心から感謝しています。また、学生のみなさまの爽やかで、真面目で思いやりのある振る舞い、そして集中力と積極性に満ちた言動が何より素晴らしく、感銘を受けています。

第三に、学修環境の素晴らしさです。附属機関の充実が私どもの教育・研究環境を支援している点に敬服します。特に、図書館は全国に誇る質、量ともに目を見張る充実度で感無量です。センターの充実度から我々の研究と学生のより良い学びを保証してもらっています。新棟 THMC のコンセプトにも敬意を表します。このような環境の下で研究推進できますことを幸せに思います。学食も美味しく、日々の健康を支えてもらっています。

まだまだございますが紙面の都合上、ご海容ください。このような素晴らしさに満ちあふれた本学にてみなさまと一緒できますことを大変光栄に思っております。ご迷惑をおかけすることも多々あるかと存じますが、鋭意尽力いたす所存にて何卒御指導のほどよろしくお願い申し上げます。



Steam 教育に関する学校視察で訪れた Norway の Ris skole (2019年1月31日)

着任の挨拶と学生の皆さんへのメッセージ

地域社会学科 准教授

佐藤 惣哉



4月より教養学部地域社会学科へ国際経済論担当として着任しました佐藤惣哉です。昨年度までは三重県の鈴鹿大学に所属していましたが、ご縁もあり都留文科大学で勤務することとなりました。まだ着任して間もないですが、自然が豊かなキャンパスで教育・研究に従事できることに幸せを感じております。

私の専門は開発経済学・経済成長理論であり、現在は高度外国人材というキーワードを軸に、教育が経済成長に与える影響について研究を行っています。近年、少子高齢化が進む日本においては外国人留学生や労働者の受け入れについての議論もなされていますが、私は将来の高度外国人材の候補となり得る留学生に注目し研究を継続していこうと考えております。私がこの研究に関心を持ったきっかけとしては大学時代の経験です。教員免許を取得した経験やスキーサークルでの指導経験などを通じて、教

えるということに対して興味を持ちました。自分が研究したことを学生に教えたいという気持ちから、大学教員という道を選びました。

私自身の経験から、大学時代に勉学に励むことは当然のことですが、それ以外にも様々なことにチャレンジして欲しいです。時には失敗することもあります。それも大事な経験です。若い皆さんであれば挽回できます。また、大学時代の友人は一生の友となり得るかもしれませんので、都留文での様々な出会いも大切にしたいと思っております。



大学時代の思い出の場所、志賀高原

着任のごあいさつ

教職支援センター 特任准教授

阿部 真一



本年度、教職支援センターに着任した阿部真一です。THMC はとてもきれいで、4階の窓から見る景色は、校舎が緑に囲まれていて素晴らしいです。また、朝早くから夜遅くまで、コモンズや教室で授業以外にも学習に励んでいる学生の姿に毎日感動しています。

私は、40年間東京の中学校教師として働いてきました。教員生活はとても多忙でしたが、私は、生徒たちからたくさんの感動と喜び、充実感を得ることができました。

最近、教員の志願者が減少し、教員が不足しています。都留文科大学は、教育フィールド研究や教職実践ゼミ等、教育現場を実践的に学ぶ環境が充実しています。4月の短い期間でしたが、教員採用試験に向けての不安感、教師になって生徒を注意できるだろうか、教育実習に向けて等、様々な相談を受けてきました。「個別相談」活動を充実させ、私は、学生の悩みや漠然とした不安等の相談に真摯に向き

合い、少しでも解決できるよう相談に応じていきたいと思います。教師という仕事が、他の仕事にはない素晴らしさがたくさんあることを伝え、多くの学生が教職の道をめざすよう力をそそぎたいと思います。



以前、在職していた中学校の授業風景です。

着任のご挨拶

教職支援センター 特任講師

羽田 静香



教職支援センターに着任しました。羽田静香と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

私は山梨県公立中学校教員として勤務し、教員生活の後半には都留市内の小中学校に管理職として勤務をしていました。ですので都留文科大学の学生の皆さんとは、教育実習の指導やSAT活動等を通して、これまでも接する機会を得てきました。

教職を志す学生の皆さんにとっては、大学での専門的な理論を中心とした学びとともに、学校現場での学外活動は実践力をつける貴重な学びであると感じています。

都留文科大学には、教育フィールド研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの授業を通して、段階的に児童・生徒とのコミュニケーションや現場での指導を体験することが出来る素晴らしいカリキュラムが用意されています。

未来を担う子どもたちを育てる教師は、とても尊く魅力に溢れた職業です。全国から本学に集い教師を目指す学生の皆さんの力になれるよう、教職経験を活かし皆さんの疑問や不安に寄り添うとともに、更に「不易流行」を意識して私自身も学び続けなが

ら、より良い指導に当たっていききたいと思っています。

今年度より「教職支援センター」は新棟 THMC 4階に移転しました。とても素晴らしい環境ですので、是非とも気軽に来室してください。



中学校での国語の授業風景
小グループを活用した表現活動の授業

Embracing Tsuru

語学教育センター 講師

Dods, Aaron Christopher



Hello, my name is Aaron Christopher Dods. Please call me Aaron. After working as a part-time teacher of English at Tsurubunka University for three years I am delighted to have joined the Center for Language Education as a full-time teacher of English.

As a part-timer I really enjoyed my one day a week at Tsurubunka University-the verdant hills that surround the city of Tsuru were a welcome relief from the concrete jungle of Tokyo. Just as importantly, I found the students here to be without fail friendly, courteous and eager to learn. It is no wonder that I jumped at the chance to work here as a full-time English teacher when the opportunity arose.

Having lived in Japan for more than twenty years I understand the challenges that young Japanese adults face when it comes to the English language. On the one hand, they realize that English is the lingua franca of the world and the de facto language for international business. They understand that as the Japanese population continues to decline, Japan will rely more and more on the outside world to drive its economy through the diversification of exports and the harnessing of inbound tourism. On the other hand, it is more than likely that they found their English language classes at junior high school and high school

to be repetitive and boring. In a largely monocultural society, it is also likely that they have had very few opportunities to expose themselves to living, authentic English.

So, it is a relief to be able to say that, after twenty plus years of teaching English in this amazing country, I am still as passionate as ever about encouraging Japanese university students to “speak English”. As I mentioned previously, English is becoming more and more critical as a skill that young people need for their careers. But it’s not just that-being able to communicate in two (or more) languages has been shown to improve mental health, allow you to engage with a broader more diverse group of people and, ultimately, broaden your horizons. As long as students can benefit through the learning of English, I will be here doing all that I can to help them!



This was me April 7th 2019 when I first came to Tsuru for 下見。I immediately fell in love with the town.

日本語教師って？

語学教育センター 特任教授

奈良 夕里枝



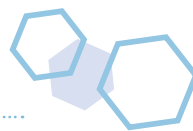
語学教育センターに着任いたしました奈良夕里枝（ならゆりえ）と申します。私は日本語教師として韓国で10年、日本でも10年以上にわたり、日本語を教えてきました。都留文科大学では指定の26単位を取得すると日本語教員養成課程の修了書がもらえます。日本語教師になりたい人はもちろんですが、最近は児童・生徒が多様化していて小学校・中学校・高校にも親の都合で日本語を全く知らないまま授業に参加するケースが増えています。そのような学生を専門にサポートする日本語教師という仕事もありますが、担任の先生に日本語教育の知識があれば、その児童・生徒にとっても安心で、早く日本語の面でもクラスメートになじんで、授業にもついていけるようになるのではないかと思います。また、近所に日本語を学びたい人が引っ越してきたり、社会に出てからもボランティア日本語教師として活躍したりと、グローバルな現代では日本語を教える機会が突然出てくることもあります。さらに、日本国内よりも海外の方が日本語教師の就職先は多くありますので、海外で仕事をする選択肢としてもおすすめです。これを読んで興味を持った皆さん、ぜひ一緒に日本語教育について学んでみませんか？



初級の壁、「て形」を教えているところです！



ハワイ大学客員研究員として



英文学科 教授
中地 幸

半期の学外研究のうちの一部をハワイ大学マノア校のアメリカ研究学科にて過ごさせていただきました。貴重な機会をくださった都留文科大学に心より感謝申し上げます。ハワイ大学は、ワイキキから車で10分ほどの場所に広大な敷地を構える総合大学で、図書館に近いイースト・ウエスト・センターの宿舎に滞在しました。研究員は図書館資料を使うことができますので、日本ではできない文献調査をすることができました。またハワイ大学の教員や名誉教授の先生から直接、研究のアドバイスを受けることもできました。

今回のハワイ滞在で全く新しく学んだのは、ポリネシアの伝統航海カヌー、ホクレア号についてです。これは二艘のカヌーをつないだカタマラン（双胴船）で、エンジンやコンパスなどの計器を使わず、星や太陽を頼りに古代の航海術で走行する船です。1970年代に起こった「ハワイアン・ルネッサンス」とよばれるハワイ文化復興運動の中でリバイバルが起こり、現在ではハワイ伝統文化の象徴として、またハワイアン・アイデンティティの根幹として位置づけられています。現地ではホクレア号の日本人クルーである内野加奈子さんという素晴らしい女性に会うことができ、停泊しているホクレア号に乗ることもできました。

1978年のホクレア号のタヒチへの航海で亡くなったエディー・アイカウについても初めて知りました。エディーは、ノースショアのビーチでライフガードとして活躍した伝説のウォーターマンで、どんな荒波でも救助を行った事を表す「エディなら行くぜ」(Eddie would go)

のフレーズで知られています。現在では世界最高峰のサーフィン大会に彼の名前がつけられています。ホクレア号が嵐で遭難しそうになった時、エディは助けを求めるためにサーフボードで嵐の海に乗り出し、そのまま行方不明になってしまいました。海を愛し、他人のために命をかけるエディの純粋な生き方は、今でも多くの人々の共感を呼んでいます。

ハワイの劇作家の作品を上演する小劇場に足を運んだのも、新しい経験でした。ヒロ出身の作家ロイス・アン・ヤマナカの小説をベースにした劇を見ることができましたが、劇場にはアジア系アメリカ人小劇場運動のようなローカルな活気があり、わくわくしました。ヤマナカも来ていました。劇場は歴史的な建物が多い地区にあり、上演前にぶらぶら歩いていたら偶然ハワイの報字新聞の草分けである日布時事の建物を発見したのも嬉しい驚きでした。

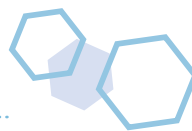
最後に馬鹿なことをしました。スーツケースを空港へ行くバスに忘れてきてしまったのです。諦めて飛行機に乗り、後から滞在中に仲良くなった日系アメリカ人女性にバス会社のオフィスに取りに行ってもらいました。帰国後に那覇市歴史博物館を通して知ったことですが、彼女は実は琉球王朝の血を引く方でした。お土産を沢山もって、またホノルルに行かないとなりません。



スケートボードが学生の学内移動手段



日本の華北占領期の研究



比較文化学科 教授
伊香 俊哉

2022 年度後期、2 度目の学外研究の機会をいただくことができた。2019 年秋に「戦時期日本の中国占領・支配の総合的研究」というテーマで科研に応募し、日中戦争開始以降の中国華北地域の状況について史料調査を中心に研究を進める計画であった。ところが 2020 年に科研採択の通知を受けた頃にはコロナウィルスの感染が拡大し、20 年度と 21 年度は現地調査を実施できなかった。22 年 6 月、受け入れ先の首都師範大学（北京）の先生から、学術交流のビザの申請が再開されるとの連絡を受け、ビザ申請に臨んだが、以前の平常時には認められていた 6 か月とか 1 年の継続滞在を認めるビザは発給されないとのことで、短期間のビザでの渡航となった。

航空チケット選びも難航したが、10 月に中国にどうにか渡り、前回の学外研究からちょうど 10 年ぶりのそれなりの北京長期滞在が始まった。ゼロコロナの厳しい規制の中、飲食店もろくに開いておらず、貧しい自炊生活を続けながら、日々 PCR 検査を受けながら、档案馆



ゼロコロナ時代はあちこちに置かれた PCR 検査所。12 月初旬、瞬間に撤去されていった。

にできるだけ通い、ネットも最大限活用しての史料収集を続けた。滞在中ゼロコロナから 100 コロナへの大転換に直面し、帰国直前にコロナに感染して飛行機に乗れなくなったらどうしたものかといった恐怖に襲われながらも、どうにか無事に帰国することができた。

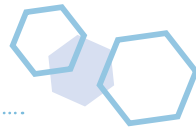
今回収集したのは 1941 年から 1945 年の治安強化運動と新国民運動に関する史料が中心となった。北京市档案馆で閲覧できる資料は全てデジタル化されたもので、複写は量的制限が厳しいので、画面を見てのパソコン入力も必要だった。帰国後は収集した史料整理・分析に集中し、従来の研究では言及されていないそれらの運動の側面を新たに見出すことができ、3 月末までにどうにか論文を 1 本書き上げることができた。ここ数年、論文らしい論文の執筆から遠ざかっていたので、自分は論文をまだ書けるのだろうかとの不安もあったのだが、まだなんとか論文を書くことができることが自己確認できた心地である。久々に研究者らしい日々を送れた意義深い半年だったと思う。このような機会を与えてくれた本学と同僚に心から感謝の意を表する次第です。



スマホアプリの wechat から表示される「健康宝」（陰性証明）と「行程カード」。これがないと交通機関や商店に入れなかった。



宇宙の始まりについての研究



学校教育学科 教授
平野 耕一

はじめに、このような学外研究の機会をいただいたことに感謝いたします。特に、校務等の面でお手数をおかけしました学校教育学科の先生方、諸関連のみなさまに御礼を申し上げます。

私は 2022 年度の一年間、東京大学のビッグバン宇宙国際研究センターにて公立大学研修員として受け入れていただき、学外研究を行いました。ビッグバン宇宙国際研究センターでは留学生が比較的多く、セミナー等は全て英語で行われていました。宇宙の初期にインフレーションと呼ばれる時期があったと言われていますが、ビッグバン宇宙国際研究センターでは、多くの研究者がこのインフレーションについて研究していました。

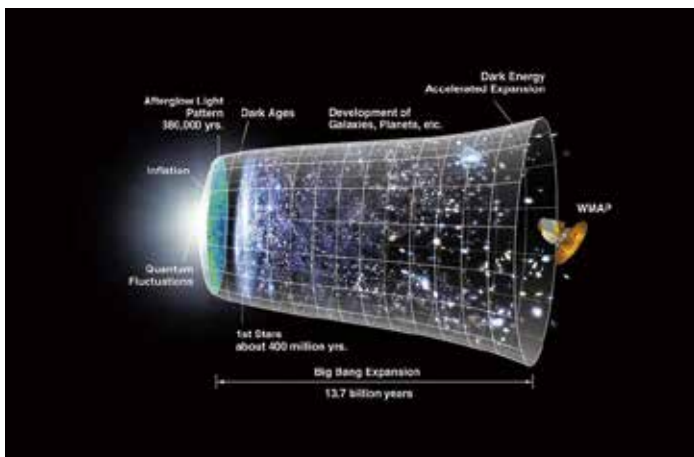
宇宙初期のビッグバンの前に、宇宙の急激な膨張が起こり、この時期に蓄えられたエネルギーがビッグバンの源になったと考えられています。この宇宙初期の急激な膨張をインフレーションと呼んでいます。インフレーションの時期に作られた量子揺らぎが、宇宙の全ての物質の源であると考えられており、ある意味、我々

はどこから来たのかという根源的な問いについて調べていると言えると思います。

宇宙初期の指数関数的な膨張（インフレーション）は、宇宙の地平線問題、平坦性問題、モノポール問題と呼ばれる宇宙物理学の基本的な問題を解決します。インフレーションの時期に作られた量子揺らぎは、宇宙背景放射の異方性として観測される密度揺らぎの種となり、宇宙の大規模構造の源となったとされています。宇宙背景放射に刻まれた温度揺らぎは、インフレーションによる量子揺らぎの痕跡であり、インフレーションが起きたことの科学的証拠であると言えます。

インフレーションについてはまだ解明されていないことも多いですが、最近の精密な宇宙論的観測によって理論が検証できつつあります。今後は、最近話題となった重力波の観測などを用いてより精密に検証されることが期待されています。インフレーションを引き起こすメカニズムについては様々なモデルが提案されていますが、私は D ブレイン、ケイラーモジュライと呼ばれるインフレーションのモデルについて検証を行い、この研究についてまとめた論文は 3 月末に受理されました。

宇宙の話に興味を持ってくれる人もいるので、理科に興味を持つという観点からも、この経験を教育に還元していきたいと思っています。



宇宙の歴史を表した図
(NASA/WMAP サイエンス
チームによる)

昨年度の就職状況を振り返る

副学長（兼キャリア支援センター長）

田中 昌弥



就職率は、1.3 ポイントの上昇

令和 5 年 3 月に本学の学部を卒業した 795 名の就職率（就職者 / 就職希望者）は、97.4%でした。前年度よりも 1.3 ポイントの上昇です。前年度は女性が苦戦したので今回も心配しましたが、初等教育、英文、比較文化、社会、国際教育、地域社会の各学科では、女性の就職率が 100%となり、全体

としても好調でした。また、「就職しない」と答えた卒業生の半数にあたる 53 名は、大学院や留学など、引き続き学び続ける道を選んでいます。これは、前年度と同数でした。

教員の正規採用と公務員が大幅増

業種別に見ると、教員が前年度比 12 名増の 194 名。このうち、公立学校に正規採用されたのは、20 名増の 120 名、臨時採用が 10 名減って 58 名でした。正規採用が大きく伸びたことは、もちろん喜ぶべきですが、全国的に教員採用試験の倍率が下がっている中では、採用数や採用率にのみ意識を向けるのではなく、学校現場で働き甲斐をもって教職を続けられる基盤を学生時代に身に付けることが重要と思います。

公務員の道に進んだのは 124 名で、前年度より

約 2 割増となりました。本学は、教員養成で全国的な評価を得てきましたが、公務員になる人も増加しており、近年では、公立学校教員の正規採用数を上回るようになっていきます。背景には、地元への U ターン、安定志向、多様化する業務への関心など、様々な要因があると思われますが、公務員志願者へのバックアップをさらに充実させ、ニーズに対応する必要があると認識しています。

ICT、AI の活用において求められる教養

企業就職は、353 名で、前年度比 20 名の減となりましたが、業種の幅が広いことは、本学卒業生の「汎用性」の高さを現わしているように思います。山田淳・前キャリア支援副センター長によると、文科大学である本学卒業生の言語能力の高さは、ICT 関連企業からも高く評価されているとのこと。理系が有利との印象がもたれやすい ICT ですが、日進月歩する技術や知識は、むしろ入社してから学ぶ面が多く、就職前には、ベースとなる言語能力や教養を身に付けていることが重要だと言われています。ICT を直接の対象とする情報通信業は、本学卒業生が多く進む業種の一つですが、どの業種でも ICT への対応が欠かせない時代ですから、是非この優位性を活かす発想を持っていただければと思いま

す。

生成系 AI(Chat GPT 等)の急速な進化も世論にぎわしていますが、あくまで道具である以上、問われるのは、使う人間の知恵や感覚、そして、どのような社会構想の下に AI を位置づけるかであり、それは人文・社会科学的な課題です。その上で、AI によって既存の作業や職業が変容したり、新たな職業が生じたりもするこれからの時代には、一度学んだ知識やスキルに安住するのではなく、柔軟性をもって学び続けることが不可欠です。そうすると、学び続ける条件があるかどうかということも職場選びの基準の一つとして重要になってくるのではないのでしょうか。

表1 令和4年度の就職関係データ

	4年度
卒業者数 A	795
就職希望者数 B	689
就職決定者数 C	671
大学院等進学者数 D	43
就職率 $C/B \times 100$	97.4
進路決定率 $(C + D)/A \times 100$	89.8

就職決定者内訳	
企業	353
教員	194
公務員	124

表2 令和5年3月卒業者（前期卒を含む）の就職先別人数

A 教員	小学校	122
	中学校	31
	高等学校	19
	特別支援学校	6
	私立学校	16
	教員合計	194

B 公務員	国家公務員	27
	地方公務員	97
	公務員合計	124

C 民間企業	農業・鉱業	1
	建設業	8
	製造業	35
	電気・ガス熱供給業	3
	運輸・郵便業	11
	卸小売業	61
	金融保険業	28
	不動産業	11
	サービス業	139
	情報処理	56
	合計	353

D 公立学校都道府県別採用数（臨採含む）	北海道・札幌市	2	長野県	10
	青森県	1	岐阜県	4
	岩手県	4	静岡県	7
	宮城県・仙台市	2	静岡市	2
	秋田県	2	浜松市	2
	山形県	2	愛知県	3
	福島県	5	三重県	3
	茨城県	2	京都市	2
	埼玉県	6	大阪府豊能地区	1
	さいたま市	2	兵庫県	2
	千葉県・千葉市	5	島根県	1
	東京都	20	岡山県・岡山市	3
	神奈川県	5	徳島県	2
	横浜市	5	愛媛県	4
	川崎市	1	福岡県	1
	相模原市	3	福岡市	2
	新潟県	4	長崎県	2
	富山県	7	宮崎県	1
	石川県	6	鹿児島県	1
	福井県	3	沖縄県	1
	山梨県	37	合計	178

就職先一覧はホームページに掲載しています。



2022 年度 「授業についての学生アンケート」の結果から

学長補佐（評価担当）

（兼 FD 委員会委員長） 春日 由香



2021 年度より本学の FD 委員会委員長を務めております。学校教育学科教員の春日由香です。本稿では、昨年度（2022 年度）に実施された「授業についての学生アンケート」の結果を総括し、コメントを述べさせていただきます。

授業アンケートについて

「授業についての学生アンケート」は、本学における授業内容の改善・向上を目的として、毎年度の前期末および後期末の授業時間内にて、受講生が WEB 上にて質問項目に回答するという形式で実施しています。（2022 年度では、一部の教養科目を除く大半の授業科目が対面授業となりました。）

なお、2022 年度より、都留文科大学の全授業科目について「授業についての学生アンケート」を実施することになりました。また、アンケートに回答する学生の負担軽減のために、アンケートの設問数を「19 問→9 問」と約半分に削減しました。

この変更に伴いまして、本年度においては、授業アンケート結果の経年変化について検討・分析することができなくなりました。そこで、この報告では、アンケートの設問文の内容・ねらいを中心として説明させていただきます。

授業アンケート実施率

表 1 は、授業アンケートの教員別実施率を示したものです。前述したように、2020 年度から、WEB 上で回答する形式のアンケートへと実施方法を変更しました。その結果、2020 年度の実施率は大きく落ち込みましたが、2021 年度は WEB 実施に関わらず、2019 年度と同程度まで持ち直しました。ところが、2022 年度の実施率は、専任・特任教員の実施率が 73.5%、非常勤講師の実施率が 78.8% という数字に留まりました。これは、本年度から全科目において授業アンケートを実施したために、実施率が落ちたと考えています。今後も、アンケート実施について教員と学生の双方に向けて周知徹底を行い、実施率を上げるために FD 委員会として取り組んでいきます。

表 1

（実施率%）

実施年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
専任・特任教員	92.4	83.4	92.6	73.5
非常勤講師	86.9	66.2	82.6	78.8

アンケート設問文についての説明

それでは以下、表 2（前期）および表 3（後期）のアンケートの設問文についてご説明させていただきます。

1 この授業について、週当たりの授業外での平均学習時間はどのくらいですか。

受講者がこの授業について、どのような意識で取り組んだかということを知るために、平均学習時間を聞いています。この結果を受けて、大学として「学生が予習や復習をする時間を確保するために」カリキュラムと時間割の精選・見直しを行いたいと考えています。

2 授業の内容は、シラバスに書かれた目標と内容に沿っていましたか。

シラバスを遵守した授業内容であるかを問うと共に、受講者自身がシラバスを理解し、能動的に学んでいるかを問い直すという二つのねらいがあります。授業担当者はこの結果を見て、自らのシラバスと授業内容との関連について見直すことができます。

3 授業の内容は、分かりやすく、興味深いものでしたか。

受講者が興味・関心をもち意欲を高く保ちながら、取り組むことができる授業であったかを知るための設問文です。

4 授業は、受講者の反応や理解度に応じたものでしたか。

5 授業者の学習意欲や授業参加を促すための工夫がされて、双方向の学びが実現されていましたか。

6 授業のレベル（難易度）は適切でしたか。

4・5・6は、従来の一斉授業の形式のみならず、学習者参加型やペアワーク・グループワークなど様々な学習スタイルが採用された「双方向な学び」を実現した授業であったか、受講者の理解度（難易度）を確認しながら授業が進められていたかを問う設問です。主として、授業者がこの設問についての結果を自らの授業改善に生かすことを目的としています。

7 あなたは、この授業で理解できなかった点について、どのように対処しましたか。（選ぶ）

（授業中に質問した・授業後に質問した・友達に質問した・自分で調べた・何もなかった）

8 この授業を履修したことで、この分野の学びについて、興味・関心・意欲をもつことができましたか。

7・8の設問は、受講者自身が主体的に授業内容を理解するために「問い」をもって臨んだか、どんな方法でその「問い」の「答え」を獲得したか、学びの中身について、受講者が興味・関心・意欲をもつことができたか

を問う設問です。この設問についての結果を知ること、授業者は、受講者がこの分野の学びについてどのように受け止めたかという（学習者の実態）を知ることができます。

9 あなたは、この授業で、発見した課題を仲間と共に協働的に探究し、解決する過程を楽しむことができましたか。

最後に、都留文科大学ディプロマ・ポリシーにある文言「課題を多角的に分析・把握」「課題解決」「具体的な実践・行動」（文学部）と「実践・行動を具体的な課題解決に結びつける」「適切なコミュニケーションをとり、信頼関係を築く」（教養学部）という理念を具体化した設問を設定しました。この授業において自ら発見した課題を、仲間と共に協働的に探究し、その解決する学びの

過程を楽しむことができたかを、受講者に問うと同時に、授業者自身が授業の内実を問い直すことを目的にしています。

最後に

本年度は、新棟「THMC (Tsuru Humanities Center)」もオープンし、「双方向型の学び」に向けて環境整備が進んでいます。本学FD委員会は今後も、授業環境の変化やICT教育実践の状況を踏まえて、新たな授業評価のあり方と授業改善に向けての方策を検討していきます。受講生である学生の皆さんと関係各位におかれましては、今後ご教示とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

表2 2022 年度前期 全体集計結果表

項	設問文	全体平均	回答率					無効回答
			とても そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	
1	この授業について、過当たりの授業外での平均学習時間はどのくらいですか。	2.62	2 時間以上	1 時間から 2 時間	30 分から 1 時間未満	30 分未満	全くして いない	24
			5.12	17.29	29.59	30.14	17.86	
2	授業の内容は、シラバスに書かれた目標と内容に沿っていましたか。	4.52	59.52	34.35	4.85	0.83	0.45	32
3	授業の内容は、分かりやすく、興味深いものでしたか。	4.40	55.96	33.32	7.00	2.65	1.07	19
4	授業は、受講者の反応や理解度に応じたものでしたか。	4.32	52.17	33.33	9.84	3.52	1.15	26
5	受講者の学習意欲や授業参加を促すための工夫がされていて、双方向の学びが実現されていましたか。	4.26	49.83	33.02	11.45	4.26	1.44	26
6	授業のレベル（難易度）は適切でしたか。	4.27	48.32	36.33	10.70	3.79	0.86	22
7	あなたは、この授業で理解できなかった点について、どのように対処しましたか。		授業中に 質問した	授業後に 質問した	友達に 質問した	自分で 調べた	何も しなかった	40
			10.15	9.58	24.88	49.63	5.76	
8	この授業を履修したことで、この分野の学びについて、興味・関心・意欲をもつことができましたか。	4.31	49.12	38.17	8.33	3.08	1.29	67
9	あなたは、この授業で、発見した課題を仲間と共に協働的に探究し、解決する過程を楽しむことができましたか。	3.96	40.08	31.28	16.95	8.10	3.59	42

表3 2022 年度後期 全体集計結果表

項	設問文	全体平均	回答率					無効回答
			とても そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	
1	この授業について、過当たりの授業外での平均学習時間はどのくらいですか。	2.66	2 時間以上	1 時間から 2 時間	30 分から 1 時間未満	30 分未満	全くして いない	27
			5.56	17.83	29.96	30.17	16.48	
2	授業の内容は、シラバスに書かれた目標と内容に沿っていましたか。	4.57	63.74	30.94	4.37	0.71	0.24	40
3	授業の内容は、分かりやすく、興味深いものでしたか。	4.47	60.82	29.88	5.94	2.60	0.77	18
4	授業は、受講者の反応や理解度に応じたものでしたか。	4.40	56.89	30.77	8.59	2.89	0.86	20
5	受講者の学習意欲や授業参加を促すための工夫がされていて、双方向の学びが実現されていましたか。	4.34	54.24	31.17	9.76	3.82	1.01	20
6	授業のレベル（難易度）は適切でしたか。	4.37	53.60	34.01	8.65	2.95	0.78	32
7	あなたは、この授業で理解できなかった点について、どのように対処しましたか。		授業中に 質問した	授業後に 質問した	友達に 質問した	自分で 調べた	何も しなかった	50
			12.35	8.27	24.61	49.69	5.07	
8	この授業を履修したことで、この分野の学びについて、興味・関心・意欲をもつことができましたか。	4.38	54.21	34.53	7.46	2.80	1.00	65
9	あなたは、この授業で、発見した課題を仲間と共に協働的に探究し、解決する過程を楽しむことができましたか。	4.07	45.03	30.01	15.31	6.62	3.04	59

入試状況報告

2023 年度入試を振り返って



入学センター長 新井 仁

本学での充実した学びに期待を寄せる学生の確保を目指し、2023 年度入試を進めてきました。その具について、以下ご報告致します。

入試の先陣を切って、総合型選抜が行われました。志願者は自分の特性を生かして本学への入学を強く希望する学生です。この志願者が 124 名で、2022 年度入試より 38 名増となりました。総合型選抜で入学した学生の学びの自由度を上げるなどの入試改革が一定の成果を上げたものと思います。続いて行われた入試が学校推薦型選抜（共通テスト利用含む）です。志願者は 644 名、入学者は 370 名で、2022 年度入試より 38 名減となりましたが、全入学者の 45.7% で適正な人数確保となっています。

一方、前期日程及び中期日程の志願者数は、学科によって差異はありますが、合計で見ると 2022 年度入試より減少しています。全国の大学入学共通テスト（旧大学入試センター試験）の受験者が減少の一途を

辿っており、本学が 2 学部制となった 4 年前に比べて 7 万人以上減少しています。大学入学共通テストが敬遠されがちな風潮において、一般選抜での志願者増を目指すことは難しい状況ではありますが、共通テストに向けて幅広く学んできた学生の多くが本学を志願したくなるような、魅力ある大学づくりに取り組むことが必要だと思います。

2023 年度入試は、結果として本学志願者は 3403 名で 2022 年度入試より 436 名減でしたが、募集定員 730 名に対し入学者は 828 名（留学生含む）で、定員の 1.13 倍となりました。今年度は新棟 THMC が完成し、ラーニングコモンズで黙々と自学している学生の姿を見ながら、魅力ある大学づくりこそ多くの志願者確保に繋がるものと信じつつ、2024 年度入試に向けて多くの志願者確保、そして優れた学生に選んでもらえる大学づくりに向けて努力を惜しまず取り組んでいきたいと思っています。

総合型選抜			
		受験者	合格者
文 学 部	英 文 学 科	55	38
	国 際 教 育 学 科	6	6
教 養 学 部	学校教育学科（第Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ期）	30	11
	地 域 社 会 学 科	33	14
学校推薦型選抜			
		受験者	合格者
文 学 部	国 文 学 科	135	61
	英 文 学 科	50	40
	比 較 文 学 科	82	53
	比較文学科（共通テスト利用）	26	18
	国 際 教 育 学 科	22	19
	国際教育学科（共通テスト利用）	4	3
	国 際 教 育 学 科（IB）	2	0
教 養 学 部	学 校 教 育 学 科	141	88
	学校教育学科（共通テスト利用）	40	18
	地 域 社 会 学 科	116	59
	地域社会学科（共通テスト利用）	26	12

前 期			
		受験者	合格者
文 学 部	国 文 学 科	71	42
	英 文 学 科	64	46
	比 較 文 学 科	81	60
	国 際 教 育 学 科	28	23
教養学部	学 校 教 育 学 科	88	53
	地 域 社 会 学 科	78	58

中 期			
		受験者	合格者
文 学 部	国 文 学 科	441	140
	英 文 学 科	403	95
	比 較 文 学 科	314	79
	国 際 教 育 学 科	62	21
教養学部	学 校 教 育 学 科	658	110
	地 域 社 会 学 科	347	97



令和4年度 都留文科大学卒業証書・学位記授与式



令和5年3月21日（火）、午前11時30分から都の杜うぐいすホールにて、令和4年度都留文科大学卒業証書・学位記授与式を開催いたしました。当日は、3月のうらかな日差しが心地よく感じられるなか802名（学部、専攻科、大学院を含む）がそれぞれの道へ旅立ちました。

藤田学長は祝辞で、「都留文科大学での4年間の学びと全国各地から集った仲間や教職員との語らい・活動や切磋琢磨した経験とその成果を心に刻み、自信と誇りと夢を持ち続け、豊かな人生と生活を切り拓き、元気に楽しく過ごされていくことを願い期待しています。」と述べられました。

卒業生代表の山崎彩桜さん（学校教育学科）は卒業生のことばとして、「4年間を通して素敵な教授の方々や友人に助けられ、支えられて、この日を迎えました。新型コロナウイルス感染症に

よって変えられてしまった日常は、少しずつ今までの世界に戻りつつあります。その一方で、今の社会は予測困難な社会であると言われており、私たちはそのような世の中に一歩踏み出していかねばなりません。私たちはまだ、荒削りの原石です。磨かれて輝くまで時間がかかってしまうかもしれませんが、それでも、いつか輝くことができるように、困ったときは大学生活で出会った人々に頼り、大学生活で学んだことを信じて、社会を生き抜いていくために覚悟を持って日々励んでいきたいと思います。」と力強く語られました。

合唱団と吹奏楽部の学生による学生歌「花のかげ」、愛唱歌「都留は universe」の演奏で式は終了しましたが、最後まで集合写真を撮り合うなど、別れを惜しむ卒業生の姿が見られました。

令和4年度学生表彰について

課外活動において特に顕著な成績を挙げたと認められる学生や団体、また、社会活動において社会的に高い評価を受けたと認められる学生や団体に対する学生表彰制度により、3名2団体が表彰されました。

種 別	被 表 彰 者	推 薦 理 由 (概 要)
学術研究活動 (個人)	あんどう ゆう き 安藤 優希 専攻科学生	日本科学教育学会JSSE第4回研究会における論文発表及びベストプレゼンテーション賞を受賞。
課外活動 (個人)	きたはら み ゆ 北原 未夢 比較文化学科4年	第1回全日本学生フルコンタクト空手道選手権大会3部女子無差別級 準優勝。
社会活動 (個人)	かにさわがわ そう 荘 蟹沢川 荘 比較文化学科4年	日本財団ボランティアセンター主催の「The Volunteer Program for Ukraine」に参加。ポーランドに派遣され、ウクライナ難民支援を実施。
課外活動 (団体)	剣道部	第71回関東甲信越大学体育大会において、女子団体優勝、女子個人3位の成績。
課外活動 (団体)	合唱団	「第75回全日本合唱コンクール全国大会 大学職場一般部門 大学ユースの部」において銀賞(全国4位)を受賞。 関東支部代表として連続14回全国大会出場。



名誉教授の称号授与

次の3名の教員に対し、これまでの研究活動並びに学内活動などの功績を称え、名誉教授の称号を授与いたしました。



藤田 英典 教授 前学長・前副理事長

2020年に着任して以来、2023年まで学長をつとめられ、学長在任中には、本学が抱えていた様々な課題解決に尽力されました。世界的な新型コロナウイルス感染症の流行により、長期の全学休校や対面授業の休止等、大学運営そのものの危機の中、学内における感染症対策本部を設置し、難局を乗り越えてこられました。また、将来構想検討委員会を設置し、2024年4月からの学部学科改編への筋道を設けたことなど、本学の新たな発展を期した整備を精力的に進められました。

佐藤 隆 教授 学校教育学科

26年間にわたり本学の教員としてつとめられました。この間、初等教育学科主任（学科長）をはじめ、教育実習指導委員会委員長、専攻科委員長、ジェンダー研究プログラム運営委員会委員長などをつとめられるなど、学科のみならず本学の運営に多大な貢献をされました。また、GP採択や黎明期におけるSAT活動、SFUプログラムなど、教育、地域貢献においても秀でた功績を残され、その人柄や真摯な勤務の様子は教員の模範となりました。



鈴木 武晴 教授 国文学科

28年間にわたって本学の教員をつとめられました。国文学科主任（現学科長）、大学院文学研究科専攻主任、大学院文学研究科入試委員長、学長補佐などの要職を歴任し、大学院文学研究科修士課程開設、独立行政法人化、学科増設や教養学部設置に伴う学部学科の再編などに多大な貢献をされました。また、各学会の役職をつとめながら、地域での講演活動を通じて社会貢献活動にも尽力されました。



本学発展のため多大な貢献を賜り、誠に有難うございました。

交換留学生 来日

今 年度、国際交流センターでは、アメリカのセント・ノーバート大学から1名、イギリスのオックスフォード・ブルックス大学から1名、スペインのサラマンカ大学から1名、中国の上海外国語大学から2名、韓国の韓国外国語大学から2名、計7名の交換留学生を新たに迎え、4月13日に学長室を訪問しました。

留学生たちは、学長を前に緊張しながらも、「日本語力向上に努めたい」、「異文化体験を満喫したい」、「多様多様な文化や習慣、言語のなかで生活し、多

彩な感覚や語学力を身に付けたい」など志高く意気込みを伝えていました。

加藤学長からは「積極的に本学の学生と交流し、たくさんのかたちを吸収し、留学生活を楽しんでほしい」と激励のお言葉をいただきました。また、「日本

で行ってみたい観光地は？」との問いかけには、「島根県の出雲大社」、「京都」などと答え、神社や鳥居など日本の文化に興味があることがうかがえました。

都留での留学生活が充実したものになることを期待しています。



第54回 つる子どもまつり 開催

5 月14日に、3年ぶりの開催となる「つる子どもまつり」が行われました。つる子どもまつりは、今年で54回を迎えた子どものためのおまつりで、昨年は厚生労働大臣表彰もいただいた歴史ある地域活動の一つです。今年の目標は、「子どもたちが直接関わり合うことで自分を解放できる場にしよう」でした。コロナを経て関わりが減ってしまった子どもたちが解放できるようなあそびや文化を体験できるよう、実行委員会では半年間、計画を練ってきました。

当日は朝から雨が降ってしまい、外遊びをすることは叶いませんでしたが、各団体が1号館と6号館に「くに」と呼ばれるブースを出しました。工作を楽しむことのできる「こうさくのくに(職人会)」、和太鼓の体験ができる「たいこのくに(和太鼓みのり)」、はないちもんめや昔のあそびを体験できる「ことばのくに(都留詩友会)」など地域団体が出しているくにや、「らっぱのくに(吹奏楽部)」、「じゃずのくに(都留jazz倶楽部)」、「ぷらっとはうすのくに(ぷらっとはうす)」など学内団体のくに、さらに今年は県内の高校生が初め



てくにを出しました。

3年ぶりの大学開催、さらに雨の中、150人以上の子どもたちが遊びにきてくれました。来年も5月に開催できるよう、これからも活動を続けていきたいと思います。

(第54回つる子どもまつり実行委員会
実行委員長 瀧澤 杏樹)

春季オープンキャンパス 実施報告

5月20日(土)に本学で春季オープンキャンパスを実施いたしました。今年は、新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針が5月8日に廃止された後でのイベント実施となりました。対面とオンラインの併用という従前からの試みは残しつつも、対面を基本に開催できましたことは大変喜ばしく思います。というのも、私が常日頃より強く感じることでありますが、本学の学生は真面目でホスピタリティがあり、かつ勉学の面においても積極的であるという特徴があります。これは本学が自信を持って胸を張れる事であり、多くの教員が感じているところです。このような学生が全国から集まってきているという事こそが、オープンキャンパスへ来場された方々へ伝えたい事の1つでもありました。

そのため、事後アンケートにおいて学生対応にお褒めの言葉を頂けた回答が多かったことは大変嬉しく思います。スタッフ対応につきましても95%以上の方が「良かった」と回答してくださっており、「悪い」という評価が1つも無かったことは大変ありがたく思います。特に今年は新校舎 THMC が会場として加わり、歴史と新しさを兼ね備えた本学の良さも感じて頂けたように思います。

オープンキャンパスへは、保護者の方を含めまして来場型が710名、オンライン型が216名の合計926名でした。人気イベントであるキャンパスツアーには303名の参加がありました。諸資格の説明会へは209名の参加があり、卒業後やカリキュラムをしっかりと見据えた上で参加して下さった方が多かった事と推



察します。特に、留学説明会へ68名の参加があり、英文学科の特別講義や学生による英語劇にも多くの来場者があったことから、海外留学志向の高まりを感じました。

事後のアンケート結果では、参加者の8割近くの方が高校3年生との回答でした。また大学卒業後の進路希望については3割5分が教員志望、3割弱が公務員を志望しているとの結果でした。本学は教育系に強いというだけでなく、他大学に比べて公務員になる割合も非常に高いという特色があります。学科の個別相談などを通して志望動機が高まったという感想が多かったように見受けられました。高校2年生以下で参加して下さった方のうち、半数以上が本学を第1志望と回答して下さっており、大学進学という将来に向けた意思決定に役立ったのではないのでしょうか。

最後になりますが、春季オープンキャンパスの準備・運営に快くご尽力いただきました、教職員・学生スタッフ・広報委員会の皆様、本当にありがとうございました。

夏季におきましても、本学の魅力を伝えるべく、引き続きよろしく願いいたします。

(広報委員長 吉岡 卓)



ローソン都留文科大学店オープン

令和5年6月6日（火）に本学初となるコンビニ店舗がオープンとなり、同日、オープニングセレモニーが執り行われ、加藤学長、後援会長、学生自治会長、ローソン関係者らが出席しました。オープン後には、学長もセルフレジでのお買い物をし、多くの学生で賑わいました。

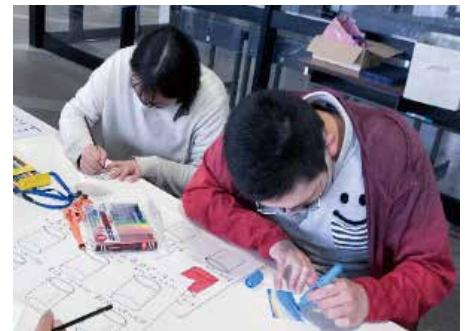
本学では、令和4年4月から移動販売を実施し、さらなる学生等の利便性向上を目的として、全国初となる移動販売からの出店に至りました。また、THMC 2階カフェ commonsにも食品販売機を新たに設置しました。

本学学生・教職員だけでなく、地域の皆さんもぜひご利用ください。



「キャリアデザインワーク」を開催しました

令和5年5月13日（土）に学校教育学科 佐藤比呂二特任教授の「キャリアデザインワーク」を開催しました。今回は「キャリアデザインワークへようこそ！」というテーマのもと、キャリアデザインワークの学生が名札づくりや Cups（カップス）活動を通し自己紹介を兼ねたゲームを行いました。今年度はあと5回実施する予定となっています。



「クロスボーダー・プロジェクト」を開催しました



令和5年5月13日（土）に学校教育学科 堤英俊准教授・山本剛特任教授の「クロスボーダープロジェクト」が開催されました。学生ボランティアが26名参加しました。

活動内容は文大体育館でダンス・フロアホッケー・フロアボール、美術等でアート活動を実施しました。今年度はあと5回実施する予定となっています。

「ボランティアひろば」を開催しました

地域交流研究センターでは、令和5年度も恒例となっている「ボランティアひろば」を、月に一回、午前12時30分から午後13時00分で実施しています。第1回「ボランティアひろば」を4月20日、第2回を5月18日、第3回を6月8日に実施しました。今後は、ボランティア団体からゲストをお呼びし話を伺ったり、記念品を配布する予定となっています。



教 員

【採 用】(令和5年4月1日付)

小 村 宏 史 (文学部国文学科准教授)
 佐 藤 惣 哉 (教養学部地域社会学科准教授)
 堤 博 一 (文学部英文文学科講師)
 菊 地 優 美 (教養学部学校教育学科講師)
 Dods Aaron Christopher (語学教育センター講師)
 浅 見 道 明 (文学部英文文学科特任教授A)
 三 崎 隆 (教養学部学校教育学科特任教授A)
 佐 藤 隆 (教養学部学校教育学科特任教授B)
 奈 良 夕里枝 (語学教育センター特任教授B)
 阿 部 真 一 (教職支援センター特任准教授B)
 羽 田 静 香 (教職支援センター特任講師B)

【退 職】(令和5年3月31日付)

藤 田 英 典 (学長)
 鈴 木 武 晴 (文学部国文学科教授)
 春 日 作太郎 (文学部初等教育学科教授)
 佐 藤 隆 (教養学部学校教育学科教授)
 春 日 尚 雄 (教養学部地域社会学科教授)
 菊 池 有 希 (文学部国文学科教授)
 西 本 勝 美 (教養学部学校教育学科教授)
 高 橋 洋 (教養学部地域社会学科教授)
 Delgrego Nicholas Dirk (語学教育センター准教授)
 豊 嶋 朗 子 (語学教育センター准教授)
 萩 原 一 郎 (文学部英文文学科特任教授A)
 山 田 暢 司 (教養学部学校教育学科特任教授A)
 柳 宏 (教養学部学校教育学科特任教授B)
 中 井 均 (教養学部学校教育学科特任教授B)
 高 田 研 (教養学部地域社会学科特任教授B)
 高 橋 雅 子 (語学教育センター特任教授B)
 宮 下 聡 (教職支援センター特任教授B)
 小 俣 一 夫 (教職支援センター特任教授B)
 瀧 澤 悠 (文学部国際教育学科特任講師B)

【昇 任】(令和5年4月1日付)

新 井 仁 (教養学部学校教育学科教授)
 鈴 木 健 大 (教養学部地域社会学科教授)
 吉 田 恵 理 (文学部国文学科准教授)
 Karl Johan Nordstrom (文学部国際教育学科准教授)
 福 島 万 紀 (教養学部地域社会学科准教授)

事務職員

【転 任】(転出)

産業建設部 上下水道課 副主幹
 若 井 美 穂 総務部 企画課 副主幹
 産業建設部 産業課 副主幹
 遠 山 政 司 総務部 企画課 副主幹
 市民部 税務課 主査
 村 松 太 一 総務部 企画課 主査
 福祉保健部 健康子育て課 主任
 久 田 江梨子 総務部 企画課 主任

【退 職】

深 澤 祥 邦 (経営企画課 再任用職員 地域交流担当再任用任期満了)

【転 任】(転入)

教務課 主幹(兼)課長補佐
 志 村 高 男 市民部 市民課 主幹(兼)課長補佐・
 個人番号カード普及推進監
 総務課 財務法制担当 主査
 宮 澤 洋 輔 総務部 財務課 副主査
 経営企画課 企画広報担当 主事
 奥 脇 開 斗 市民部 地域環境課 主事
 総務課 財務法制担当 再任用職員
 榎 田 仁 再任用・派遣

【昇 任】

教務課 課長
 上 野 剛 学生課 主幹(兼)課長補佐
 総務課 図書館担当 副主査
 藤 原 達 生 総務課 図書館担当 主任
 総務課 研究支援担当 主査専門職員
 谷 内 陽 子 総務課 研究支援担当 主任専門職員
 教務課 教職担当 主査専門職員
 関 戸 聡 子 学生課 教職担当 主任専門職員
 教務課 教職担当 主査専門職員
 小 林 美貴子 学生課 教職担当 主任専門職員
 学生支援課 キャリア支援センター担当 主査専門職員
 有 馬 治 子 学生課 教務担当 主任専門職員

【配置換え等】

総務課 主任(都留市企画課)
 栗 賀 暁 学生課 学生担当 主任
 経営企画課 地域交流担当 主査専門職員
 谷 内 正 美 学生課 保健センター担当 主査専門職員
 経営企画課 地域交流担当 再雇用職員
 小 林 泰 憲 学生課 教職担当 再雇用職員
 経営企画課 IR 担当 主査専門職員
 大 輪 知 穂 総務課 情報センター担当 主査専門職員
 教務課 教務担当 副主査
 青 木 敦 生 経営企画課 入試担当 副主査
 経営企画課 情報センター担当 主査
 藤 江 毅 総務課 情報センター担当 主査
 経営企画課 情報センター担当 副主査
 井 上 邦 男 総務課 情報センター担当 副主査
 教務課 教務担当 副主査
 佐 藤 絵 美 学生課 教務担当 副主査
 教務課 教務担当 主任
 渡 邊 誠 大 学生課 教務担当 主任
 教務課 教務担当 主事
 坂 泉 樹 学生課 教務担当 主任
 教務課 教務担当 専門職員(保健師)
 遠 山 喜与子 学生課 教務担当 専門職員(保健師)
 教務課 国際交流センター担当 主査専門職員
 前 田 文 子 学生課 国際交流センター担当 主査専門職員
 教務課 国際交流センター担当 主任専門職員
 雨 宮 ひとみ 学生課 国際交流センター担当 主任専門職員
 教務課 国際交流センター担当 専門職員
 渡 邊 佑 学生課 国際交流センター担当 専門職員
 学生支援課 課長
 久保田 昌 宏 学生課 課長
 学生支援課 主幹(兼)課長補佐
 長 坂 美 和 学生課 主幹(兼)課長補佐
 学生支援課 学生担当 副主査
 高 野 裕 介 学生課 学生担当 副主査
 学生支援課 キャリア支援センター担当 主任
 照 屋 奈 智 学生課 キャリア支援センター担当 主任
 学生支援課 キャリア相談専門職員
 梅 澤 あゆみ 学生課 キャリア相談専門職員
 学生支援課 キャリア相談専門職員
 谷 内 夏 子 学生課 キャリア相談専門職員
 学生支援課 キャリア相談専門職員
 杉 本 かおる 学生課 キャリア相談専門職員
 学生支援課 保健センター担当 カウンセラー
 箭 本 佳 己 学生課 保健センター担当 カウンセラー
 学生支援課 保健センター担当 専門職員(保健師)
 小 坂 真 代 学生課 保健センター担当 専門職員(保健師)
 学生支援課 保健センター担当 専門職員(カウンセラー)
 鈴 木 正 子 学生課 保健センター担当 専門職員(カウンセラー)

【採 用】(令和5年4月1日付)

総務課 研究支援担当 主事 岸 川 千 紘
 総務課 図書館担当 主事 小 林 倭 央
 経営企画課 入試担当 主事 木 下 翔 太
 学生支援課 学生担当 副主査 古 屋 道 輝
 教務課 国際交流センター担当 主査専門職員 清 水 明 仁

編集後記

「正しく評価される」英語の
テストを目指して

英文学科 黒川 智史

今年度より広報委員に着任いたしました黒川智史と申します。私の専門分野についてこの場を借りて説明させていただきます。みなさんは「正しく評価されていない」と感じたことはありますか。私の専門分野は、言語テスト理論というもので、「言語のテストが正しく評価しているか」の検証です。具体的には、外国語科目のテストが、妥当であり、信頼できるものなのかを検証しています。もちろんテストの中には、入学試験のように、その結果が受験者の今後の人生を左右するほどに重要なものから、授業毎に実施する小テストのように、受験者にとって重要度が比較的低いものまで様々です。

前者については、大学入学共通テストの枠組みで、複数の英語民間試験のスコアを活用する方針が頓挫したことが記憶に新しいかもしれません。英語民間試験導入が頓挫したのは、異なる目的で作られている英語民間試験のスコア同士を比べるのは、妥当性、信頼性の観点、ならびに大学一般選抜において最も重視され



学会帰りに立ち寄った Oxford 大学校内の写真 執筆撮影

ている項目である公平性、公正性を欠いているとみなされており、「正しく評価している」状態とは程遠いものでした。また、運用面での問題も多く存在していました。大学入試のように全国規模のテストについては、定量的に妥当性、信頼性を検証するだけでなく、定性的に言語テスト理論ではその経緯をまとめることも重要です。私は今ちょうど、定性的に英語民間試験導入経緯について本を書いていますので、少しばかりお待ちください。

さて後者の小テストについてですが、これも重要です。日々のテストで上達を確認できなければ、学生は「正しく評価されていない」と感じてしまうでしょう。英文学科の卒業生、少なくともゼミ生は教壇に立つことを想定して、学生を正しく評価できるように育てていく所存であります。

ぶんだい堂

新しい国際協力論【第3版】
ーグローバル・イシューに立ち向かう



山田満・堀江正伸（編）
峯田史郎 他 執筆
2023年4月 発行
明石書店

◇峯田 史郎
地域社会学科 准教授

環境社会学事典



環境社会学会（編）
神長唯 他 執筆
2023年3月 発行
丸善出版

◇神長 唯
地域社会学科 教授

戦争と文化的トラウマ
日本における第二次世界大戦の長期的影響



竹島正・森茂起・中村江里（編）
伊香俊哉 他 執筆
2023年4月 発行
日本評論社

◇伊香 俊哉
比較文化学科 教授



〒402-8555 山梨県都留市田原 3-8-1
☎ 0554-43-4341
URL: <https://www.tsuru.ac.jp/>

都留文科大学報 第152号 2023年7月3日発行

都留文科大学広報委員会

吉岡 卓（委員長）・日向良和（副委員長）・佐藤明浩（担当副学長）・黒川智史・上野貴彦
原 和久（委員）・堤 英俊・菊地優美・神長 唯・安富博史（企画広報担当）・大輪知穂（IR 担当）
有馬治子（キャリア支援センター担当）・天野麻由（企画広報担当）・奥脇開斗（企画広報担当）